

災害から命を守る 防災教育

和歌山大学
此松昌彦

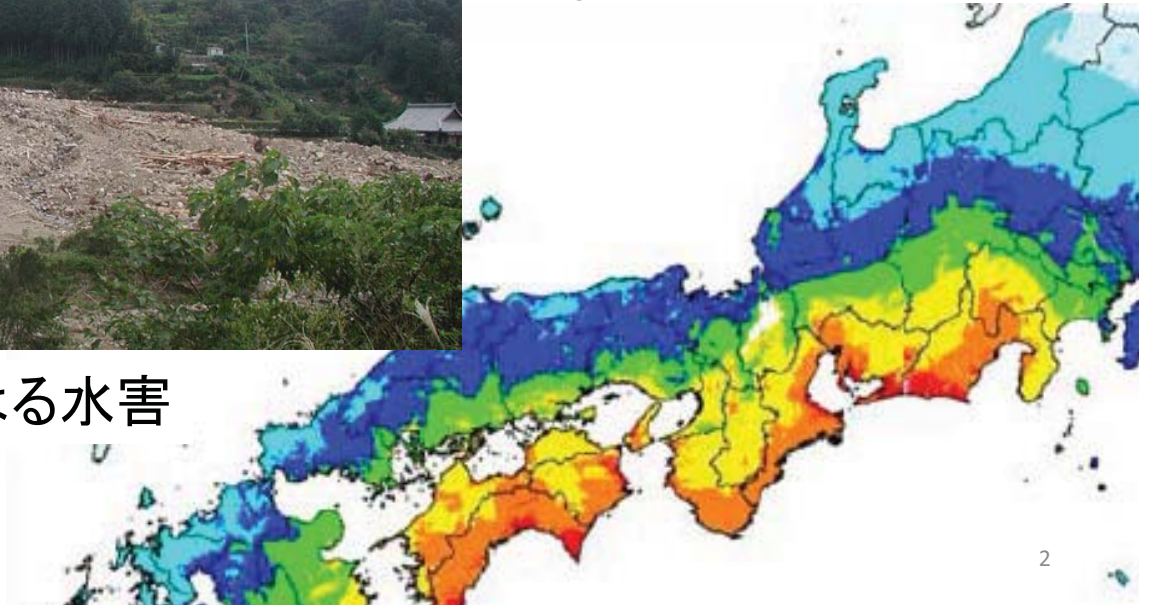
1

この周辺ではどんな災害が
発生しますか。



台風などによる水害

南海トラフの地震による
揺れや津波による被害



2

地域の防災意識を 高めたい

- すぐに避難できるようにするためには
- 安全な地域として備えたい

3

防災教育のキーワード

- **自然理解**

自然現象とはどのような仕組みで、なぜ発生するのか **歴史的経験**



- **想像力**

大きな災害が発生したら、自分や家族に何が起こり、どうすればよいのかを想像する力の育成



- **対応能力**

発生する自然現象に応じて、適切な対応をとる能力を育てる安全教育 **避難訓練**

4

**自分の住んでいる場所が
どのように形成されたのか、
どんな災害が
発生していたのか
知っていますか。**

**ジオパークでは住民が地
域を学び、観光客の方に
アピールする**

5



山が2段になっている。なんだろう

6



熊野酸性岩(火成岩)

熊野層群(堆積岩)



土地条件図 那智勝浦(国土地理院)

那智谷の支流には
大きな酸性岩の礫がたまっていた
山麓堆積物



那智川の支流の溪谷の
には、おびただしい量の
礫主体の堆積物が集積
していた。

(紀伊半島大水害前)

図-13 「市野村(市野々村)図」

寛政辛酉(享和元年・1801)『熊野名勝図書』より

国立公文書館蔵



**那智谷は棚田に利用されていた。
かつての土石流は見えなくなっ
てしまった。**

一野村

● 土砂災害に備えて！

雨が降り続いた場合には、地盤がゆるんで土砂災害の発生する可能性が高くなります。前兆現象に気がついたら注意する必要があります。

土石流

谷や斜面にたまった土砂が大雨による水と一緒に、一気に流れてくる現象です。「山津波」とも呼ばれています。



前兆現象

- ・ 山鳴りがする
(山全体がうなるような音)
- ・ 川の流れが濁ったり流木が混じる
- ・ 雨が降り続けているのに川の水が減っている

地すべり

粘土のような滑りやすい地層にしみこんだ雨水の影響で地面が動き出す現象です。



前兆現象

- ・ 井戸の水が濁る
- ・ 地面がひび割れる
- ・ 池や沼の水の量が急激に変化する
- ・ 樹木が傾く

がけ崩れ

急ながけや山の斜面が突然崩れ落ちる現象です。他の土砂災害に比べて多く、一瞬で崩れるので危険です。



前兆現象

- ・ がけから小石がパラパラと落ちてくる
- ・ がけから水が湧き出てくる
- ・ がけに割れ目ができる

上富田町洪水HM

11

これからの地域の課題

- ・ 被災地以外は災害に対してリアルになれない。
- ・ 運営では高齢者が多く、自主防災組織の立ち上げ課題
- ・ 避難訓練の参加者が少ない。どうしたら協力者が増加するのか
- ・ 地域のこと(災害、気象など)がわかる防災リーダーの養成が急務

12

避難3原則

- 原則1 「想定に、とらわれるな」
- 原則2 「最善を尽くせ」
- 原則3 「率先し避難せよ」

群馬大学 片田敏孝¹³

教えるではなく、伝える

知ったから、正しい
行動するのではない

皆さんの防災意識を変えるのには？

知ったから、正しいから
行動をするのではない。

私たちは論理や理屈だけ
では本当に動きません。

「感動」はありますが、「知動」はありません。

15

知らないから行動するまで

知らない(わからない)



教えられる ← 一方向 **講座**



知る(わかる) ← 双方向・全方向
図上訓練など



できる



多くの訓練が必要
体験的プログラム



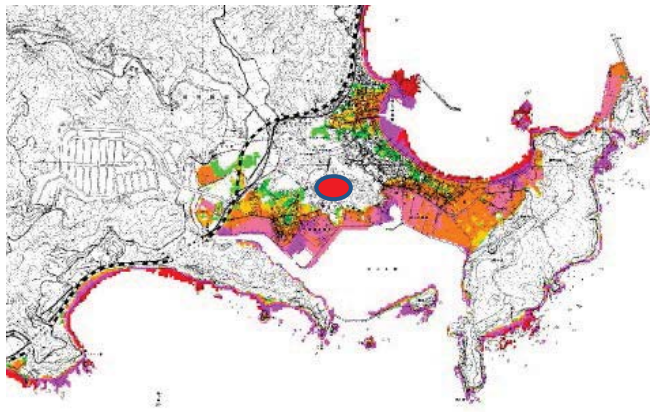
自分も行動しないと
恥ずかしい やる(行動する)

16

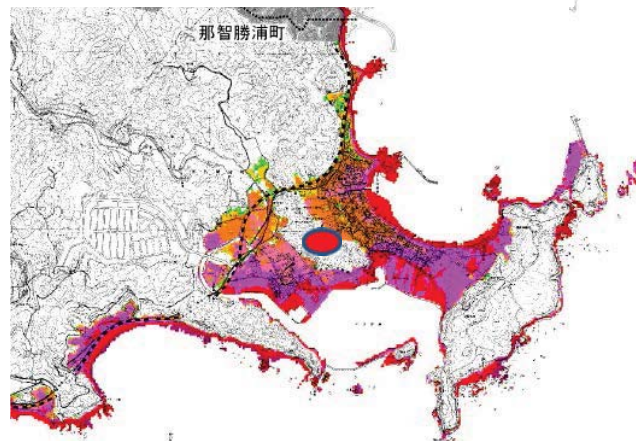
宇久井中学校の位置

南海トラフの地震が発生すると、低地では津波の第1波が10分以下でやってくる可能性が高い。

学校は高台にあり、学校にいるときは地震や津波は安全。



東海・東南海・南海3連動地震
津波浸水想定図(和歌山県)



南海トラフの巨大地震
津波浸水想定図(和歌山県)

17

那智勝浦町宇久井中学校での 防災教育プログラムの開発と実践

今西客員教員
と此松が担当

3. 11メッセージの視聴による**感動**

災害の悲惨さから、心を動かして自分で動くきっかけにする

地震や津波についての**講座**

教えられる

イメージできなければ、自ら避難行動ができない

通学路防災マップの作成や避難所運営**体験**

知る・できる

自ら通学路でどのようなことが発生するかイメージできるようになる

感動・講座・体験によって自ら危険についてイメージし
行動できるようになる。

18

防災教育のまとめ

—二年間の防災教育を通して—



平成7年日1月17日阪神大震災が発生から19年を迎えました。また3年前の平成23年3月11日には東日本大震災そして大津波、同9月4日にはこの地方で紀伊半島豪雨災害、それ以降各地を襲っている集中豪雨、竜巻、まさに未曾有の大災害が発生し、地域や場所によって被災状況は異なりますが改めて自然災害の恐さを思い知らされます。

私は、生徒を危険から少しでも守るために、学校教育でできることを考えてみると、二つの大きな柱があると考えます。一つは、災害に対して正しい知識を持つこと。もう一つは、自ら判断し主体的に行動する力を身につけることです。「リスク認知」という言葉があります。「自然災害に対して甘くなること。」「自分は大丈夫。この地域は大丈夫。」という意識が働くということです。しかし災害は誰にも等しく降りかかってくるわけですから現実的に根拠はありません。平成24年度・25年度の二年間町の研究委託を受けて、どのような危機なのかを明らかにし、それに対して学校として何ができるのか。生徒や教職員、保護者や地域の方には何をしてもらいたいのかを伝えることが、リーダーとして校長が果たす役割だと考えました。ささやかな発表会ではありますが、二年間の取組の一端をご覧いただき、ご指導・ご助言をいただきますようお願いいたします。最後になりましたが協力いただきました関係機関、関係者の皆様に感謝申し上げます。

校長 吾妻 信也

和歌山県那智勝浦町立宇久井中学校



班ごとに検討

通学路防災マップの作成



宇久井中学校

班ごとに発表

知らないから行動するまで

知らない(わからない)

↓
教えられる ← 一方向 講座

↓
知る(わかる) ← 双方向・全方向
図上訓練など

↓
できる ← 多くの訓練が必要
体験的プログラム

自分も行動しないと
恥ずかしい

やる(行動する)

21

まとめ

- 自然理解、想像力、対応能力の順番で避難行動が可能。
- 自分の住んでいる場所を知ることが重要
- ジオパークが災害や地質・地形を知ることが可能。
- 感動・講座・体験によって自らの危険をイメージして行動できるようになる。

22